

2019年 春季年会

# 年会プログラム

於 法政大学

2019年3月14日(木) ~ 3月17日(日)

日本天文学会

# 日本天文学会 2019年 春季年会プログラム

期 日 2019年3月14日(木)～3月17日(日)

場 所 法政大学小金井キャンパス(東京都小金井市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2019年3月13日(水)～3月17日(日)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月13日 (水)							記者会見						
3月14日 (木)	A	受 付			W. コンパクト天体 L. 太陽系/N. 恒星		U. 宇 宙 論 V1. 観測機器 V2. 観測機器 T. 銀 河 団 Q. 星間現象 P1. 星・惑星		特別セッション (安全保障と天文学III)			理事会	
	B												
	C												
	D												
	E												
	F												
	G												
	H												
	I												
3月15日 (金)	A	受付	W. コンパクト天体	昼 休 み (代議員総会)	ポスター	W. コンパクト天体	天文教育フォーラム	特別セッション (キャリアをどう デザインするか)	懇親会				
	B		N. 恒 星			M. 太 陽							
	C		U. 宇宙論/X. 銀河形成			X. 銀河形成							
	D		V1. 観測機器			V1. 観測機器							
	E		V2. 観測機器			V2. 観測機器							
	F		R. 銀 河			R. 銀 河							
	G		Q. 星間現象			Q. 星間現象							
	H		P1. 星・惑星			P1/P2. 星・惑星							
	I												
3月16日 (土)	A	受付	W. コンパクト天体	昼 休 み	ポスター	W. コンパクト天体	会員全体集会	受賞記念講演					
	B		M. 太 陽			M. 太 陽							
	C		X. 銀河形成			X. 銀河形成							
	D		V3. 観測機器			V3. 観測機器							
	E		K. 超新星爆発			K. 超新星爆発							
	F		S. 銀 河 核			S. 銀 河 核							
	G		Q. 星間現象			Y. 教育・他							
	H		P2. 星・惑星			P2/P3. 星・惑星							
	I												
3月17日 (日)	A	受付		昼 休 み	ポスター	特別セッション (国立天文台 現状と今後)	ジュニアセッション						
	B		M. 太 陽										
	C												
	D		V3. 観測機器										
	E												
	F		S. 銀 河 核										
	G												
	H		P3. 星・惑星										
	I												
3月24日 (日)							公開講演会						
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

A会場 : 東館 2F (E201)

B会場 : 東館 2F (E202)

C会場 : 東館 2F (E208)

D会場 : 東館 2F (E207)

E会場 : 東館 2F (E209)

F会場 : 東館 2F (E210)

G会場 : 東館 1F (E106)

H会場 : 東館 1F (E104)

I会場 : 東館 2F (体育館)

受 付 : 東館 1F

ポスター会場 : 西館 2F、3F

展示コーナー : 東館 1F

懇 親 会 : 東館 B1F

## ◎講演数

講演数：合計 537

(口頭講演 (a)：375、ポスター講演 (b)：122、ポスター講演 (c)：40)

## ◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

## ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込)
	(但し講演ありの場合、参加費は無料)	
講演登録費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき)	
	(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円)	
年会予稿集	2,000 円 (消費税込)	2,000 円 (消費税込) (購入希望者のみ)

## ○参加登録受付場所：受付

○参加登録受付時間：3月14日 11：00～16：00

3月15日 09：00～16：00

3月16日 09：00～16：00

3月17日 09：00～13：30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

## ◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 10 会場で並行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、年会プログラムで指定された時間帯にポスター会場の指定された場所に掲示できます。ポスターセッションを活性化するために、ポスターセッションの時間にはポスター講演者は会場に居てください。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦 180 cm×横 90 cm です。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前に PC の接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいてください。

## ◎会期中の行事

月日	時間	会場	行事名
3月13日 (水)	13:30～16:00	法政大学 九段校舎	記者会見
3月14日 (木)	15:15～17:15	A会場	特別セッション「安全保障と天文学Ⅲ」
3月15日 (金)	15:30～17:30	A会場	天文教育フォーラム
	17:45～18:45	A会場	特別セッション 「キャリアをどうデザインするか」
	19:00～21:00	法政大学生協(東館 B1F)	懇親会
3月16日 (土)	15:45～17:15	I会場	会員全体集会
	17:15～18:45	I会場	受賞記念講演
3月17日 (日)	13:30～14:30	A会場	特別セッション 「国立天文台 -現状と今後-」
3月24日 (日)	13:30～16:00	一橋講堂	公開講演会

## ◎会合一覧表

月日	時間	会場	会合名	参加可否*
3月14日 (木)	18:30～19:30	会議室	理事会	D
3月15日 (金)	11:30～12:30	A会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	11:30～12:30	B会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	11:30～12:30	D会場	宇宙電波懇談会集会	C
	11:30～12:30	G会場	代議員総会	D
3月16日 (土)	11:30～12:30	A会場	インターネット天文学辞典をよりよいものに	A
	11:30～12:30	B会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	C会場	SKA-Japan 定期会合	B
	11:30～12:30	E会場	光赤外線天文連絡会	C
	11:30～12:30	F会場	女性天文学研究者の会ランチミーティング	A
	11:30～12:30	H会場	内地留学奨学金選考委員会	D
3月17日 (日)	11:30～12:30	I会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	D会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B

※年会参加者の参加可否の説明(オープン化の程度)

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎特別セッション：「安全保障と天文学Ⅲ：- 日本天文学会からの声明 -」

日時：2019年3月14日（木）15：15～17：15

場所：A会場

概要：科学者はその社会的責任を負うことを前提として、研究の自由を保障されているのです。しかし、過度の競争と短期的に目立つ成果が求められる昨今、科学と社会のかかわりについて積極的に考えるという姿勢が次第に失われています。日本学術会議は2017年3月24日に「軍事的安全保障研究について」と題した声明を発表しました。これは、基礎研究と軍事研究との関係という問題を再提起し、個々の科学者、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会とともに真摯な議論を続けることを求めています。日本天文学会は、会員の皆様とともにこの問題を考える取り組みとして、天文月報に「安全保障と天文学シリーズ」の連載を行い、会員アンケートを実施し、2018年春季年会および秋季年会において特別セッション「安全保障と天文学」を開催いたしました。2018年12月に開催された臨時会員全体集會では、声明作成ワーキンググループが検討した声明の骨子が提示され、会員の皆様と議論いたしました。本セッションでは、日本天文学会からの声明文についての全体総括を行います。

世話人：柴田一成（京都大学）、林左絵子（国立天文台）、伊王野大介（国立天文台）、浅井歩（京都大学）、一色翔平（北海道大学）、海老沢研（宇宙科学研究所）、大藪進喜（名古屋大学）、片岡章雅（国立天文台）、志達めぐみ（愛媛大学）、須藤靖（東京大学）、善光哲哉（京都大学）、高橋慶太郎（熊本大学）、藤沢健太（山口大学）

主催：公益社団法人 日本天文学会

◎天文教育フォーラム：「IAU100年と天文教育～ Strategic Plan 2020-2030に向けて」

日時：2019年3月15日（金）15：30～17：30

場所：A会場

概要：国際天文学連合（IAU）は2019年で創設100周年を迎えます。これを機にIAUでは、活動の大きな指針として、前回のウィーンでの総会において「IAU Strategic Plan 2020-2030」を採択しています。この中で、2020年からの10年間で、天文学の普及や、天文学による社会の発展への貢献に力を注ぐとともに、新たな試みも始めることが記されています。とくにIAUでは学校教育をはじめとした天文教育、および inclusive astronomy に力を注いでいくことが示されています。天文教育の推進に関しては、新たに Office of Astronomy Education(OAE) が設立されます。また多様性に配慮し、すべての人の天文活動への参加を推進していくことが述べられています。今回の天文教育フォーラムでは、「IAU Strategic Plan 2020-2030」を紹介するとともに、日本の天文学・天文教育コミュニティに何ができるかを参加者全体で考えていきます。

話題提供（敬称略）：

岡村定矩 「IAU Strategic Plan: 2010-2020 から 2020-2030 へ」

Lina Canas 「IAU Symposium on ASTRONOMY FOR EQUITY, DIVERSITY AND INCLUSION - a roadmap to action within the framework of the IAU centennial anniversary」

縣秀彦 「天文教育の未来予想図 -日本からの世界貢献とは?-」

嶺重慎 「Inclusive Astronomy」

津村耕司 「天文教育:大学と高校をつなぐ」

費用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

世話人：鴈野重之、中串孝志、亀谷和久、富田晃彦、木村かおる

主催：公益社団法人 日本天文学会 / 日本天文教育普及研究会

### ◎特別セッション：「キャリアをどうデザインするか」

日時：2019年3月15日（金）17：45～18：45

場所：A会場

概要：天文学分野の出身者がどのようにキャリアを構築していくかは、コミュニティ全体の課題である。天文学ないしその周辺分野を専攻する学生数の増加は、結果として、従来のキャリアパスに留まらず、さまざまな職種・分野への進出を促すこととなっている。しかしながら、そのためのキャリアパスの描き方については、個々人の力に頼る部分が大きく、コミュニティとして十分なサポートができていないと言いがたい。

本セッションでは、まさにこれから自らのキャリアを描こうとしている学生会員、キャリアパスを描きつつある若手会員、キャリアパスについて助言する立場の会員等、広い意味での当事者らとともに、現状認識を共有すると同時に、今後のコミュニティとしてのサポートのあり方について議論をしたい。

世話人：市川 隆、今田晋亮、奥村幸子、鈴木寛大、須藤 靖、高梨直紘、中川雄太、古屋玲（キャリア支援委員会）

共 催：日本天文教育普及研究会、男女共同参画委員会

### ◎特別セッション：「国立天文台 ー現状と今後ー」

日時：2019年3月17日（日）13：30～14：30

場所：A会場

概要：国立天文台は現在、予算的な状況がきわめて厳しくなる状況下で、大型観測装置を建設・運用する責任を果たしつつ、日本の天文学のナショナルセンター・COE 研究所として最先端の研究成果を生み出していくため、様々な改革を進めている最中である。本特別セッションでは、天文学の分野を超えて広い研究者コミュニティの皆様へ、現在の国立天文台が置かれた状況を正しく理解していただくと同時に、現在進めているさまざまな改革、例えば組織改革による運営の効率化、スクラップアンドビルド（岡山天体物理観測所の閉鎖、野辺山宇宙電波観測所および水沢 VLBI 観測所の規模縮小、そして科学研究部の創設）などの様々な努力について、ご理解いただき、ご意見をいただくべく開催するものである。

#### プログラム

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1. セッション趣旨説明         | 渡部潤一（国立天文台総務担当副台長） |
| 2. 国立天文台の置かれた状況について  | 常田佐久（国立天文台長）       |
| 3. 国立天文台の財務状況と今後の見通し | 井口 聖（国立天文台企画担当副台長） |
| 4. 科学研究部の創設について      | 齋藤正雄（国立天文台研究連携主幹）  |
| 5. 総合討論              |                    |

世話人：渡部潤一、井口聖

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：自然科学研究機構国立天文台

### ◎進路相談コーナー

日時：2019年3月15日（金）、16日（土）11：30～13：30

場所：(TENNET および当日掲示板にて案内予定)

概要：大学院生及びポスドク研究員のみなさん、日々研究を進めるなかで将来について迷いや相談したいことはありませんか。キャリア支援委員会ではそのような皆さんの進路選択の一助になればと、進路相談コーナーを開催します。相談役には、ポスドクの方、および、大学や研究所などのいわゆるアカデミックポジション以外の道を選び、天文学とその周辺分野で学んだことを活かして社会のさまざまな場で活躍する先輩方をお招きする予定です。昼食を持ち込んでの相談も可です。ぜひ足を運んでみませんか。もちろん相談内容に関する個人情報や秘密は厳守されます。なお、アドバイザーの出身分野や現在の仕事の内容については、決まり次第 TENNET にて案内します（当日、会場でもご案内します）。

主 催：日本天文学会キャリア支援委員会



## 正会員展示

## ◎ 宇宙科学データアーカイブ DARTS

日 時：天文学会期間内

場 所：東館 1F

概 要：宇宙航空研究開発機構では宇宙科学データのアーカイブサイト DARTS を運営しています。DARTS は天文学、太陽物理学のみならず、月惑星科学、太陽地球物理学や微小重力科学などの多岐にわたる分野の宇宙科学データを公開しています。宇宙線物理学・ $\gamma$ 線天文では「CALET」、X線天文では「ぎんが」、「あすか」、「すざく」、「MAXI」、「ひとみ」、赤外線天文では「BICE」、「IRTS」、「あかり」、電波天文では「はるか」、太陽物理学では「ひのとり」、「ようこう」、「ひので」の観測データがあります。それぞれのデータについて、長期保管とその有効利用を目的として、データのみならずドキュメント・解析プログラムなどの整備も進めており、時代が経過しても過去のデータの解析ができるように配慮しています。

また、目的のデータを見つけやすくする検索システムやクイックルック（早見）アプリケーションを公開しています。これらのアプリケーションは、研究利用を念頭としていますが、大学学部レベルの教育や高校教育、初等教育へも応用されています。

本展示では、DARTS の紹介、ウェブサイトやアプリケーションのデモンストレーションを行い、最新の DARTS を見ていただくとともに、皆様のご意見やご要望などのフィードバックを伺いたいと考えております。DARTS をご存知の方も知らなかった方も、以前使っていた方も今使っている方も、ぜひ本ブースへいらしてください。

世 話 人：海老沢研 (JAXA/ISAS) ebisawa.ken@jaxa.jp

殿岡英顕 (JAXA/ISAS) tonooka.hideaki@jaxa.jp

菅原泰晴 (JAXA/ISAS) sugawara.yasuharu@jaxa.jp

## 正会員展示

## ◎ Thirty Meter Telescope

日 時：天文学会期間内

場 所：東館 1F

概 要：Thirty Meter Telescope (TMT) は、すばる望遠鏡に続く次世代の超大型光学赤外線望遠鏡として、ハワイ島マウナケアでの完成を目指して建設が進められています。集光力はすばる望遠鏡に比べ 13 倍、解像度はハッブル宇宙望遠鏡の約 10 倍になります。その結果得られる圧倒的な感度によって、太陽系外惑星に生命の兆候を探ること、宇宙初期の天体の成り立ちを解明することなどが、TMT の大きな目標です。

TMT 建設は、日本、米国、カナダ、中国、インドによる国際協力事業です。日本では国立天文台が中心となって、望遠鏡、主鏡、観測装置の設計・製作を行うほか、国内外の大学・研究機関と協力して、第二期観測装置のための研究開発を推進しています。

本展示では、TMT の概要と望遠鏡建設の進捗に加えて、サイエンス検討や第二期観測装置の検討についてもご紹介します。また、TMT 講師派遣など、国内での普及活動についてもご紹介します。

世 話 人：青木和光 (国立天文台 TMT 推進室)

白田知史 (国立天文台 TMT 推進室)

林左絵子 (国立天文台 TMT 推進室)